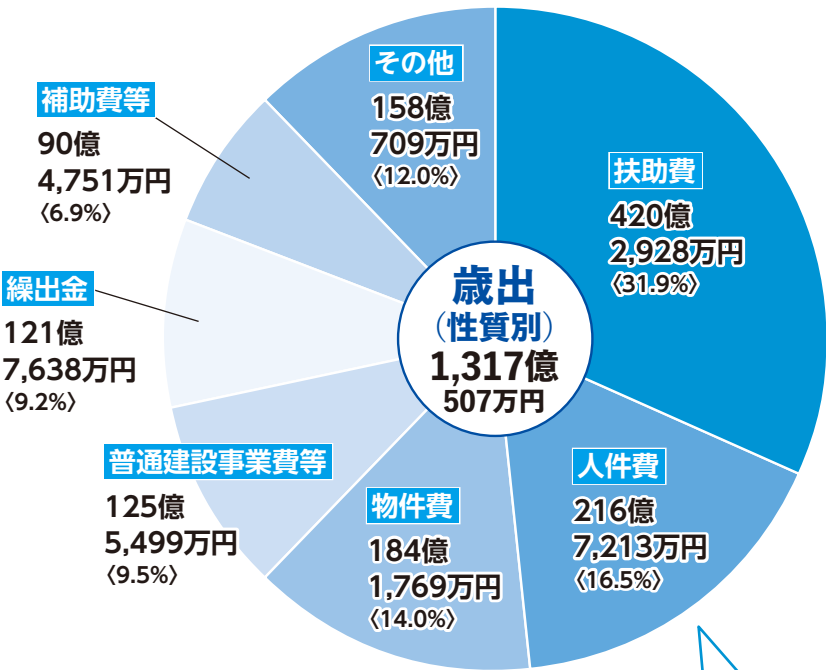
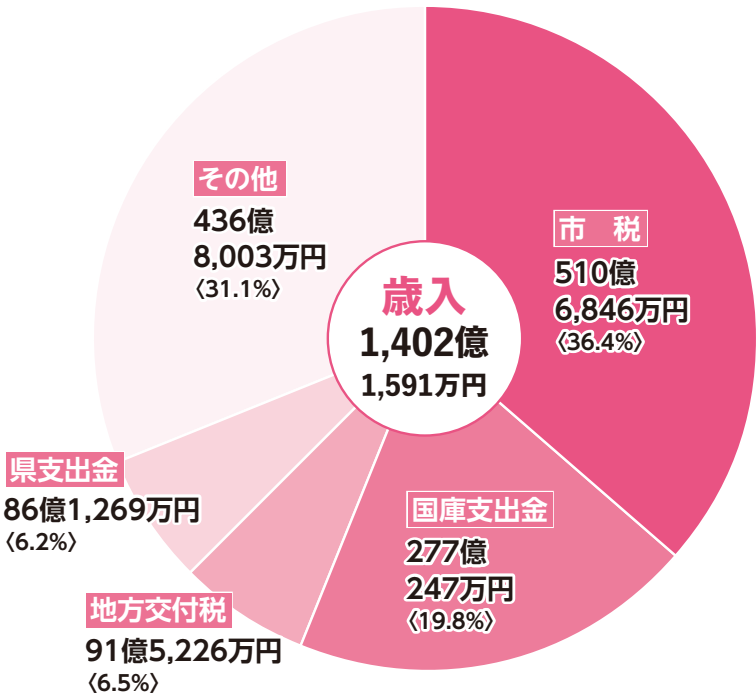


市の財政状況についてお知らせします。

令和6年度の歳入(収入)は、地方交付税の増加などにより、令和5年度と比べて40億5,042万円増えましたが、歳出(支出)も38億6,093万円増えました。歳出のうち、最も多くの割合を占める扶助費は、福祉サービスなどに関する経費です。
今後も少子高齢化の影響で、本市も人口減少の局面を迎え、市税

収入の減少に加えて、福祉関連などの支出の増加が見込まれます。
財政破綻を早期の段階で回避するための目標である「財政健全化判断比率」は、すべての指標で早期健全化基準を下回っているため、市の財政は健全な状態といえますが、将来を見据えて、限られた財源をむだなく効果的に使っていく必要があります。

一般会計決算



財政健全化判断比率

この数値を下回れば健全

指標の名称	指標の概要	越谷市の数値	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計を中心とした赤字の割合	赤字なし	11.25%
連結実質赤字比率	市のすべての会計を合算した全体の赤字の割合	赤字なし	16.25%
実質公債費比率	市の平均的な年間収入に対する、借入金の返済額の割合	5.2%	25.0%
将来負担比率	市の平均的な年間収入に対する、将来に負担が見込まれる負債の割合	1.3%	350.0%

* 黒字の場合は「赤字なし」としています。実質赤字比率は▲13.08%、連結実質赤字比率は▲18.36%です

資金不足比率

一般会計などに属さない公営企業会計における資金の不足額について、事業の規模に対する割合で示す指標です。病院経営を取り巻く環境が厳しさを増す中、病院事業会計では資金不足が発生しています。

特別会計等の名称	東越谷土地区画整理事業	病院事業	公共下水道事業
越谷市の数値	資金不足なし	5.1%	資金不足なし
経営健全化基準	20.0%	20.0%	20.0%

* 資金剰余の場合は「資金不足なし」としています。東越谷土地区画整理事業は、事業規模(営業収益)がないため資金不足比率が算出されません。公共下水道事業は▲39.5%です

歳出(性質別)～どんな性質のお金？～

- 扶助費** 各種福祉サービスを提供するための経費など
- 人件費** 職員の給与や議員報酬など
- 物件費** 委託料、光熱水費、備品購入費など
- 普通建設事業費等** 学校、道路、公園等の建設など
- 繰出金** 他会計への繰出金
- 補助費等** 各種団体への助成金など
- その他** 市債(市が借り入れたお金)を返済するための経費など

歳出(目的別)～何のために使ったお金？～

目的		決算額	構成比
民生費	保育所などの運営、高齢者や障がい者への支援など	651億5,946万円	49.5%
総務費	住民基本台帳や戸籍、地域振興、その他市役所の管理運営など	170億6,400万円	12.9%
教育費	学校・図書館などの管理運営、文化・スポーツ振興など	152億4,280万円	11.6%
衛生費	ごみ・し尿の処理、公害防止、その他市民の健康づくりなど	108億9,445万円	8.3%
土木費	道路、河川、公園の整備・管理、その他都市整備など	96億2,090万円	7.3%
公債費	市債(市が借り入れたお金)の返済	76億4,346万円	5.8%
その他	消防車両等の整備、農業や商工業の振興、雇用対策など	60億8,000万円	4.6%
歳出合計		1,317億507万円	100.0%

広報こしがやの各記事は、市ホームページで詳細の確認や電子申請ができます。